【公報種別】登録実用新案公報の訂正
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和2年2月27日(2020.2.27)

【登録番号】実用新案登録第3224680号(U3224680)
【登録日】令和1年12月18日(2019.12.18)
【登録公報発行日】令和2年1月16日(2020.1.16)
【年通号数】公開・登録公報2020-002
【出願番号】実願2019-3272(U2019-3272)
【訂正要旨】国際特許分類及びＦＩの誤載により下記のとおり全文を訂正する。
【国際特許分類】
Ａ４６Ｂ　15/00　(2006.01)
Ａ４６Ｂ　5/00　(2006.01)
Ａ４７Ｌ　17/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４６Ｂ　15/00　Ａ
Ａ４６Ｂ　5/00　Ｃ
Ａ４７Ｌ　17/00　Ａ
【記】別紙のとおり

(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3224680号
(U3224680)
(45)発行日　令和2年1月16日(2020.1.16)　(24)登録日　令和1年12月18日(2019.12.18)

(51)Int.Cl.		F I		
A46B 15/00	(2006.01)	A46B	15/00	A
A46B 5/00	(2006.01)	A46B	5/00	C
A47L 17/00	(2006.01)	A47L	17/00	A

評価書の請求 未請求　請求項の数 7　ＯＬ　（全 12 頁）

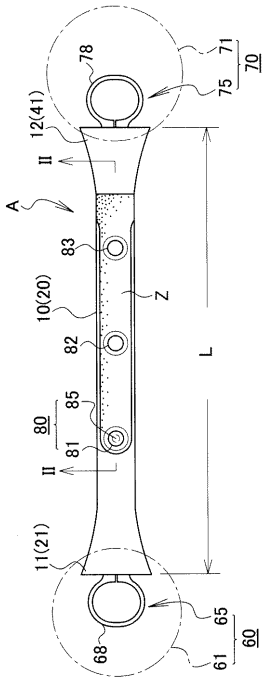
(21)出願番号　実願2019-3272(U2019-3272)
(22)出願日　令和1年8月30日(2019.8.30)

新規性喪失の例外適用申請有り

(73)実用新案権者　500004069
アイオン株式会社
大阪府大阪市中央区谷町二丁目６番５号
(74)代理人　100082083
弁理士　玉田　修三
(72)考案者　野口　比呂志
大阪府大阪市中央区谷町二丁目６番５号
アイオン株式会社　内
(72)考案者　本橋　拓志
大阪府大阪市中央区谷町二丁目６番５号
アイオン株式会社　内

(54)【考案の名称】洗浄拭き取り具

(57)【要約】
【課題】深底のボトルや水筒などを楽に洗浄することができ、洗浄後に残っている水滴を、布巾や吸水紙を別途に用いることなく、直ちに拭き取ることのできる洗浄拭き取り具を提供する。
【解決手段】掴み柄１０と、掴み柄１０の一方側端部に着脱可能に設けた吸水用ブラシヘッド６０と、掴み柄１０の他方側端部に着脱可能に設けた洗浄用ブラシヘッド７０と、を有する。吸水用ブラシヘッド６０がポリビニルアルコール樹脂製の吸水体６１を有し、洗浄用ブラシヘッド７０がポリプロピレン繊維を捲縮させてなる繊維集合体７１を有する。掴み柄１０の長さを増減することができる。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
手作業による洗浄及び水滴の拭き取りに用いる洗浄拭き取り具であって、
棒状の掴み柄と、水滴の拭き取りに用いられる吸水用ブラシヘッドと、洗浄に用いられる洗浄用ブラシヘッドと、を有し、
上記吸水用ブラシヘッドと上記洗浄用ブラシヘッドとが、上記掴み柄の一方側及び他方側の各端部に振り分けて各別に設けられていることを特徴とする洗浄拭き取り具。
【請求項２】
上記吸水用ブラシヘッドが、ポリビニルアルコール樹脂のスポンジシートを切り開くことによって形成された多数の枝分かれ細片を有する吸水体と、この吸水体が着脱される第１保持部を有して上記掴み柄の端部に着脱可能な第１取付具と、を備え、
上記掴み柄に装着された第１取付具の上記第１保持部による吸水体の保持位置が、上記掴み柄の軸線に対する偏り箇所になるように構成されている請求項１に記載した洗浄拭き取り具。
【請求項３】
上記枝分かれ細片は、内層部に埋入された補強用芯材を有し、かつ、外面にエンボス加工により形成された凹凸を有する請求項２に記載した洗浄拭き取り具。
【請求項４】
上記洗浄用ブラシヘッドが、ポリプロピレン繊維を捲縮させてなる繊維集合体と、この繊維集合体が着脱される第２保持部を有して上記掴み柄の端部に着脱可能な第２取付具と、を備え、
上記掴み柄に装着された第２取付具の上記第２保持部による繊維集合体の保持位置が、上記掴み柄の軸線に対する偏り箇所になるように構成されている請求項１ないし請求項３のいずれか１項に記載した洗浄拭き取り具。
【請求項５】
上記掴み柄が、補助掴み柄として使用可能な第１軸部と補助掴み柄として使用可能な第２軸部とに分かれていて、第１軸部及び第２軸部のうちの少なくとも一方側部材が筒状に形成され、かつ、筒状の一方側部材に他方側部材が抜き差し自在に差し込まれ、
上記一方側部材の先端部が上記掴み柄の一方側の端部に相応し、この一方側部材から突出した他方側部材の先端部が上記掴み柄の他方側の端部に相応していると共に、上記一方側部材とこれに差し込まれた上記他方側部材とを一体化するための固定機構を有する請求項１ないし請求項４のいずれか１項に記載した洗浄拭き取り具。
【請求項６】
上記固定機構が、上記第１軸部又は上記第２軸部のうちの一方側部材に設けられた凹部と、他方側部材に形成された弾性片に設けられて上記一方側部材に対する上記他方側部材の抜き差し動作を通じて上記凹部に嵌脱される凸部とを有してなり、上記凹部が上記一方側部材の軸方向複数箇所に間隔を隔てて設けられているか、又は、上記凸部が上記他方側部材の軸方向複数箇所に間隔を隔てて設けられている請求項１ないし請求項５のいずれか１項に記載した洗浄拭き取り具。
【請求項７】
棒状の上記掴み柄と上記第１軸部と上記第２軸部とのそれぞれに、吊り下げ用の孔部が具備されている請求項１ないし請求項６のいずれか１項に記載した洗浄拭き取り具。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、洗浄拭き取り具、詳しくは、ボトルや水筒などを洗浄したり洗浄後に水滴を拭き取ったりすることに用いられる洗浄拭き取り具に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来より、柄の一端にスポンジや毛束などのブラシを装着してなる洗浄用ブラシは広く

知られ、一般家庭や各種作業場などの多くの場所で汎用されている。従来例としてのこの種の洗浄用ブラシは、作業者が片手で柄を掴んでボトルや水筒などの内面をブラシで擦って洗浄するという使い方をするのが一般的である。そして、洗浄し終わったボトルや水筒などの物品は、表面や内面に付着している水滴を手作業で布巾や吸水紙などを使用して拭き取ったり自然乾燥させたりする、ということが行われている。

【０００３】

先行例によると、紐状体の一端にブラシを連結した洗浄用ブラシが提案されている（特許文献１参照）。この特許文献１に記載されている洗浄用ブラシによると、瓶などの容器の中に入れたブラシを転動させることによって汚れが除去される、とされている。

【０００４】

また、他の先行例によると、略円柱状の基部の一端にペットボトルキャップの内側を洗浄するための毛束を設け、もう一端に、ペットボトル口部内側を洗浄するスポンジとペットボトル口部ネジ部を洗浄する毛束を内側に向けて設けたペットボトル洗浄ブラシが提案されている（特許文献２参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００５】

【特許文献１】特開２０１８－２７２８１号公報

【特許文献２】実用新案登録第３１９８４１５号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【０００６】

ところで、洗浄し終わったボトルや水筒などの物品に付着している水滴を布巾や吸水紙を使用して手作業で拭き取る作業は煩わしく、特に深底のボトルや水筒などでは内底部分に手が入りにくかったり入らなかったりすることも多いという問題があった。上掲の先行例に係る洗浄ブラシを用いて洗浄した物品についても同様の問題が生じる。

【０００７】

本考案は以上の問題点を改善することを意図してなされたものであり、深底のボトルや水筒などの物品を楽に洗浄することができることは勿論、洗浄した物品に残っている水滴を、布巾や吸水紙を別途に用いることなく、洗浄後に直ちに拭き取ることのできる洗浄拭き取り具を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【０００８】

本考案に係る洗浄拭き取り具は、手作業による洗浄及び水滴の拭き取りに用いる洗浄拭き取り具であって、棒状の掴み柄と、水滴の拭き取りに用いられる吸水用ブラシヘッドと、洗浄に用いられる洗浄用ブラシヘッドと、を有し、上記吸水用ブラシヘッドと上記洗浄用ブラシヘッドとが、上記掴み柄の一方側及び他方側の各端部に振り分けて各別に設けられている、というものである。

【０００９】

このように構成された洗浄拭き取り具によれば、作業者が掴み柄を片手で掴んだまま、洗浄用ブラシヘッドと吸水用ブラシヘッドとを使い分けて、物品の洗浄と洗浄した物品に付着している水滴の拭き取りとを行うことが可能である。特に、掴み柄を片手で掴んで、吸水用ブラシヘッドを深底のボトルや水筒などの物品に差し込んで水滴の拭き取りを楽に行うことができるという利便性がある。

【００１０】

本考案では、上記吸水用ブラシヘッドが、ポリビニルアルコール樹脂のスポンジシートを切り開くことによって形成された多数の枝分かれ細片を有する吸水体と、この吸水体が着脱される第１保持部を有して上記掴み柄の端部に着脱可能な第１取付具と、を備え、上記掴み柄に装着された第１取付具の上記第１保持部による吸水体の保持位置が、上記掴み柄の軸線に対する偏り箇所になるように構成されていることが望ましい。ポリビニルアル

コール樹脂（ＰＶＡ）は 親水性が非常に強い熱可塑性樹脂であり、ＰＶＡスポンジシートはそれ自体に備わっている微細な連続気孔が水滴をすばやく吸収する、という超速吸水性を発揮する。この超速吸水性という特性は、ＰＶＡのスポンジシートを切り開くことによって形成された多数の枝分かれ細片を有する吸水体によっても当然に発揮されるので、吸水用ブラシヘッドを用いて洗浄後の物品に付着している水滴を拭き取る際にもこの特性が生かされる。また、吸水したＰＶＡのスポンジシートを絞ると吸水性が回復するという特性を水滴の拭き取りに利用することも可能である。さらに、掴み柄に対する第１取付具の着脱性や第１取付具に対する吸水体の着脱性を利用することによって、吸水用ブラシヘッド全体の取り換えや吸水体の取り換えも可能である。そのほか、吸水体の保持位置が、掴み柄の軸線に対する偏り箇所になるように構成されていることによって使い勝手が向上する。

【００１１】

本考案において、上記枝分かれ細片は、内層部に埋入された補強用芯材を有し、かつ、外面にエンボス加工により形成された凹凸を有する、という構成を有することが望ましい。この構成において、枝分かれ細片の外面にエンボス加工により形成された凹凸は、水滴を効率よく吸収させることに役立つ。また、枝分かれ細片の内層部に埋入された補強用芯材は、吸水体の耐久性を向上させることに役立つ。

【００１２】

本考案では、上記洗浄用ブラシヘッドが、ポリプロピレン繊維を捲縮させてなる繊維集合体と、この繊維集合体が着脱される第２保持部を有して上記掴み柄の端部に着脱可能な第２取付具と、を備え、上記掴み柄に装着された第２取付具の上記第２保持部による繊維集合体の保持位置が、上記掴み柄の軸線に対する偏り箇所になるように構成されていることが望ましい。ポリプロピレン（ＰＰ）繊維を捲縮させてなる繊維集合体は洗剤の泡立ちをよくして洗浄効率を高めることに役立つ。そのほか、繊維集合体の保持位置が、掴み柄の軸線に対する偏り箇所になるように構成されていることによって使い勝手が向上する。

【００１３】

本考案では、上記掴み柄が、補助掴み柄として使用可能な第１軸部と補助掴み柄として使用可能な第２軸部とに分かれていて、第１軸部及び第２軸部のうちの少なくとも一方側部材が筒状に形成され、かつ、筒状の一方側部材に他方側部材が抜き差し自在に差し込まれ、上記一方側部材の先端部が上記掴み柄の一方側の端部に相応し、この一方側部材から突出した他方側部材の先端部が上記掴み柄の他方側の端部に相応していると共に、上記一方側部材とこれに差し込まれた上記他方側部材とを一体化するための固定機構を有する、という構成を採用することができる。これによれば、一方側部材から他方側部材引き抜いてそれらの各部材を補助掴み柄として利用することにより、洗浄用ブラシヘッドを利用する洗浄と吸水用ブラシヘッドを利用する水滴の拭き取りとを行うことができる。

【００１４】

本考案では、上記固定機構が、上記第１軸部又は上記第２軸部のうちの一方側部材に設けられた凹部と、他方側部材に形成された弾性片に設けられて上記一方側部材に対する上記他方側部材の抜き差し動作を通じて上記凹部に嵌脱される凸部とを有してなり、上記凹部が上記一方側部材の軸方向複数箇所に間隔を隔てて設けられているか、又は、上記凸部が上記他方側部材の軸方向複数箇所に間隔を隔てて設けられている、という構成を採用することが可能である。これによれば、第１軸部とこれに差し込まれた第２軸部とによって構成される棒状の掴み柄の長さを段階的に増減調節することができるようになるという利便性が得られる。

【００１５】

本考案では、棒状の上記掴み柄と上記第１軸部と上記第２軸部とのそれぞれに、吊り下げ用の孔部が具備されていることが望ましい。これによれば、棒状の掴み柄の一方側及び他方側の各端部に振り分けて各別に設けられている吸水用ブラシヘッドや洗浄用ブラシヘッドを乾燥させるときに、掴み柄に具備された吊り下げ用の孔部を利用することができ、また、第１軸部や第２軸部に各別に設けられた吸水用ブラシヘッドや洗浄用ブラシヘッド

を個別に乾燥させるときに、第１軸部や第２軸部に具備された吊り下げ用の孔部を利用することができる。

【考案の効果】

【００１６】

本考案に係る洗浄拭き取り具によれば、ボトルや水筒などの深底の物品を楽に洗浄することができることは勿論、洗浄した物品に残っている水滴を、布巾や吸水紙を別途に用いることなく、洗浄後に直ちに楽に拭き取ることが可能である。また、たとえば１人の作業者が掴み柄を片手で掴んだまま物品を洗浄したり水滴を拭き取ったりすることができるだけでなく、１つの洗浄拭き取り具を利用して、２人の作業者が洗浄と水滴の拭き取りとを分担して行うことも可能になるという利便性がある。

【図面の簡単な説明】

【００１７】

【図１】本考案の実施形態に係る洗浄拭き取り具の正面図である。

【図２】図１のＩＩ－ＩＩ線に沿う断面図である。

【図３】図１の洗浄拭き取り具の背面図である。

【図４】図１の洗浄拭き取り具の側面図である。

【図５】第１軸部の正面図である。

【図６】第１軸部の背面図である。

【図７】第１軸部と第１取付具とを示した分解背面図である。

【図８】第２軸部の正面図である。

【図９】第２軸部の背面図である。

【図１０】第２軸部と第２取付具とを示した分解背面図である。

【図１１】（Ａ）は吸水用ブラシヘッドの吸水体を概略的に示した一部破断説明図、（Ｂ）は同吸水体の要部を拡大して示した説明図である。

【図１２】（Ａ）は吸水体に用いられる素材の一部を破断した部分斜視図、（Ｂ）は同素材の断面形状を例示した説明図である。

【図１３】洗浄用ブラシヘッドの繊維集合体を概略的に示した一部破断説明図である。

【考案を実施するための形態】

【００１８】

図１は本考案の実施形態に係る洗浄拭き取り具Ａの正面図、図２は図１のＩＩ－ＩＩ線に沿う断面図である。また、図３は図１の洗浄拭き取り具Ａの背面図、図４は図１の洗浄拭き取り具Ａの側面図である。

【００１９】

洗浄拭き取り具Ａの使用対象には、ガラス製やステンレス製のボトル、水筒、コップや、陶磁器、フッ素樹脂加工品、パイプ材などの工業品といった多種類の物品が含まれる。図例の洗浄拭き取り具Ａは、まっすぐな棒状の掴み柄１０と、水滴の拭き取りに用いられる吸水用ブラシヘッド６０と、洗浄に用いられる洗浄用ブラシヘッド７０と、を有する。そして、吸水用ブラシヘッド６０が掴み柄１０の一方側の端部１１に設けられているのに対して、洗浄用ブラシヘッド７０が掴み柄１０の他方側の端部１２に設けられている。また、吸水用ブラシヘッド６０が、後述する吸水体６１と第１取付具６５とを有し、洗浄用ブラシヘッド７０が、後述する繊維集合体７１と第２取付具７５とを有する。

【００２０】

この洗浄拭き取り具Ａによれば、作業者が棒状の掴み柄１０を片手で掴んだまま、洗浄用ブラシヘッド７０と吸水用ブラシヘッド６０とを使い分けて、物品の洗浄と洗浄した物品に付着している水滴の拭き取りとを行うことが可能である。特に、深底のボトルや水筒などの内部の洗浄や水滴の拭き取りを行うときには、掴み柄１０を片手で掴んで洗浄用ブラシヘッド７０や吸水用ブラシヘッド６０を深底のボトルや水筒などの物品に差し込むことができるので、洗浄作業や拭き取り作業を楽に行うことができる。また、掴み柄１０の表面には滑り止め処理が施された領域Ｚが備わっていることにより、作業者が洗浄や拭き取りの作業中に手を滑らせて洗浄拭き取り具Ａを落としてしまうという事態を起こしにく

い。

【００２１】

図３に示したように、掴み柄１０の一方側の端部１１の背面側部分には、吊り下げ用の孔部１５を備えた吊下げ片１３の基部１４が揺動可能に取り付けられている。したがって、同図に仮想線で示したように、掴み柄１０の側方へ揺動させた吊下げ片１３の孔部１５を利用して吊り下げることにより、洗浄拭き取り具Ａを乾燥させたりを保管したりすることができる。なお、符号１６は、上記吊下げ片１３を掴み柄１０の背面との重なり位置（収納位置）に保持させるための位置決め突起である。

【００２２】

上記した洗浄拭き取り具Ａの掴み柄１０は、図２に示されている筒状の第１軸部２０と、この第１軸部２０に抜き差し自在に差し込まれた第２軸部４０とに分かれている。言い換えると、第１軸部２０に第２軸部４０を差し込むことによって上記掴み柄１０が構成されていて、掴み柄１０の表面に施されている上記した滑り止め処理の施された領域Ｚは第１軸部２０に形成されている。また、上記吊下げ片１３も第１軸部２０に設けられている。そして、図１などに示したように、第１軸部２０の先端部２１が、上記した掴み柄１０の一方側の端部１１に相応し、この第１軸部２０から突出した第２軸部４０の先端部４１が、上記した掴み柄１０の他方側の端部１２に相応している。

【００２３】

図５は第１軸部２０の正面図、図６は第１軸部２０の背面図、図７は第１軸部２０と第１取付具６５とを示した分解背面図である。

【００２４】

第１軸部２０の先端部２１に、図７に示した第１取付具６５が装着されている。第１取付具６５は、この第１取付具６５自体にＵ字形の切り目を形成することによって具備された樹脂製の弾性片６６を有し、この弾性片６６の自由端部に突起６７が備わっているのに対して、第１軸部２０の先端部２１の背面側には係合孔２２が備わっている。そして、第１取付具６５を第１軸部２０の先端部２１に押し込むと、図６のように突起６７が係合孔２２に嵌入状に係合して第１軸部２０の先端部２１に第１取付具６５が装着されるようになっている。したがって、第１軸部２０の先端部２１に装着されている第１取付具６５は、突起６７を押し込んで係合孔２２から離脱させた上で第１軸部２０の先端部２１から引き抜くことによって第１軸部２０から取り外される。また、第１取付具６５にはリング状に形成された第１保持部６８が一体に備わっていて、この第１保持部６８に吸水体６１が装着されている。

【００２５】

図５又は図６のように先端部２１に第１取付具６５を介して吸水体６１が装着された第１軸部２０は、補助掴み柄としての使用することができる。このため、補助掴み柄としての第１軸部２０を作業者が片手で掴み、吸水体６１を使ってボトルなどに付着している水滴を楽に拭き取ることが可能である。また、図６のように、第１軸部２０の基端部２３の背面側に吊り下げ用の孔部２４が設けられていて、この孔部２４を利用することにより、使用後の湿った吸水体６１を下位にして吊り下げて乾燥させたり、吸水体６１が装着されている第１軸部２０を保管したりすることができる。

【００２６】

図８は第２軸部４０の正面図、図９は第２軸部４０の背面図、図１０は第２軸部４０と第２取付具７５とを示した分解背面図である。

【００２７】

第２軸部４０の先端部４１に、図１０に示した第２取付具７５が装着されている。第２取付具７５は、図７を参照して説明した第１取付具６５と同様の構成を有している。すなわち、第２取付具７５は、この第２取付具７５自体にＵ字形の切り目を形成することによって具備された樹脂製の弾性片７６を有し、この弾性片７６の自由端部に突起７７が備わっているのに対して、第２軸部４０の先端部４１の背面側には係合孔４２が備わっている。そして、第２取付具７５を第２軸部４０の先端部４１に押し込むと、図９のように上記

突起７７が係合孔４２に嵌入状に係合して第２軸部４０の先端部４１に第２取付具７５が装着されるようになっている。したがって、第２軸部４０の先端部４１に装着されている第２取付具７５は、突起７７を押し込んで係合孔４２から離脱させた上で第２軸部４０の先端部４１から引き抜くことによって第２軸部４０から取り外される。また、第２取付具７５にはリング状に形成された第２保持部７８が一体に備わっていて、この第２保持部７８に繊維集合体７１が装着されている。

【００２８】

図８又は図９のように先端部４１に第２取付具７５を介して繊維集合体７１が装着された第２軸部４０も補助掴み柄として使用することができる。このため、補助掴み柄としての第２軸部４０を作業者が片手で掴み、繊維集合体７１を使ってボトルの内部などを楽に洗浄することが可能である。また、図８～図１０のように、第２軸部４０の基端部４３の正面側に吊り下げ用の孔部４４が設けられていて、この孔部４４を利用することにより、使用後の湿った繊維集合体７１を下位にして吊り下げて乾燥させたり、繊維集合体７１が装着されている第２軸部４０を保管したりすることができる。

【００２９】

図１及び図２に示したように、第２軸部４０と共に掴み柄１０を構成している第１軸部２０の正面側壁部には、当該第１軸部２０の軸方向３箇所に一定の間隔で貫通孔でなる凹部８１，８２，８３が備わっている。これに対し、第２軸部４０の基端部４３の近傍箇所に、３箇所の上記凹部８１，８２，８３のそれぞれに嵌脱可能な突起でなる１つの凸部８５が設けられている。図８又は図９のように、この凸部８５は、第２軸部４０自体にＵ字形の切り目を形成することによって具備された樹脂製の弾性片８６の自由端部に設けられている。そして、上記した３箇所の凹部８１，８２，８３のうちの任意の１つの凹部と凸部８５とによって固定機構８０が構成され、３箇所の凹部８１，８２，８３のうちの任意の１つの凹部に凸部８５が嵌入状に係合した状態では、この固定機構８０の作用によって第１軸部２０とこれに差し込まれた第２軸部４０とが一体化されて、第１軸部２０からの第２軸部４０の抜け出しが阻止されるようになっている。したがって、たとえば、図２のように凹部８１に係合している凸部８５を押し込んで凹部８１から離脱させた上で第２軸部４０を矢印Ｘ１のように引き抜き方向に引張ることによって、凸部８５を、凹部８２に嵌入状に係合させたり、凹部８３に嵌入状に係合させたりすることが可能である。また、図示していないけれども、凹部８３に係合している凸部８５を押し込んで凹部８３から離脱させた上で第２軸部４０を矢印Ｘ２のように押し込むことによって、凸部８５を、凹部８２に嵌入状に係合させたり、凹部８１に嵌入状に係合させたりすることが可能である。この操作を通じて、図１に示した掴み柄１０の長さＬを３段階に増減調節することが可能になるので、洗浄や拭き取りの対象物であるボトルなどの深さに応じて掴み柄１０の長さを調節することができるという利便性が得られる。

【００３０】

図１１（Ａ）は吸水用ブラシヘッド６０の吸水体６１を概略的に示した一部破断説明図、同図（Ｂ）は同吸水体６１の要部を拡大して示した説明図である。また、図１２（Ａ）は吸水体６１に用いられる素材の一部を破断した部分斜視図、同図（Ｂ）は同素材の断面形状を例示した説明図である。

【００３１】

吸水体６１には、親水性や吸水性に優れた素材、特にＰＶＡスポンジを好適に用いることができる。この実施形態では、吸水体６１の素材として図１２（Ａ）（Ｂ）に示した構成のＰＶＡスポンジシート９１を採用している。同図（Ａ）のＰＶＡスポンジシート９１は、内層部に樹脂ネットでなる補強用芯材９２が埋入されている。また、表裏の外面にエンボス加工により形成された凹凸９３を有する。そして、吸水体６１は、図１１（Ａ）（Ｂ）のようにＰＶＡスポンジシート９１を細く切り開くことによって形成された多数の枝分かれ細片９５を有していて、それらの枝分かれ細片９５が全体として略球状に形作られている。このような吸水体６１は、ロール巻き状のＰＶＡスポンジシート９１を図５などに示した第１取付具６５の第１保持部６８に圧縮状態で挿通することによって保持させ、

その状態で、多数の枝分かれ細片９５を展開して球状に形作ることによって得られる。吸水体６１の形状は、略球状である以外に、たとえば略直方体などであってもよい。

【００３２】

このような吸水体６１によると、ＰＶＡスポンジでなる多数の枝分かれ細片９５が強い親水性を発揮し、しかも、それ自体に備わっている微細な連続気孔が水滴をすばやく吸収する、という超速吸水性を発揮する。このため、洗浄後の物品に付着している水滴を拭き取る際にもこの特性が生かされる。また、吸水した吸水体６１を絞ると吸水性が回復するという利点も備えている。そのほか、枝分かれ細片９５の外面にエンボス加工により形成された凹凸９３が水滴を効率よく吸収させることに役立ち、枝分かれ細片９５の内層部に埋入されている補強用芯材９２が吸水体６１の耐久性を向上させることに役立つ。さらに、この実施形態では、掴み柄１０の端部に対して第１取付具６５が着脱可能であり、さらに、第１取付具６５の第１保持部６８に対して吸水体６１が着脱可能であるので、これらのことを利用すると、吸水用ブラシヘッド６０の全体を取り換えたり、吸水体６１だけを取り換えたりすることも可能である。

【００３３】

図１３は洗浄用ブラシヘッド７０の繊維集合体７１を概略的に示した一部破断説明図である。この実施形態では、繊維集合体７１に一定量のＰＰ繊維を使用し、この繊維集合体７１を図８などに示した第２取付具７５の第２保持部７８に圧縮状態で挿通することにより保持させて捲縮させ、その状態で略球状に形作っている。繊維集合体７１にＰＰ繊維を用いると、洗剤の泡立ちがよくなって洗浄効率を高めることに役立つ。また、掴み柄１０の端部に対して第２取付具７５が着脱可能であり、第２取付具７５の第２保持部７８に対して繊維集合体７１が着脱可能であるので、これらのことを利用すると、洗浄用ブラシヘッド７０の全体を取り換えたり、繊維集合体７１だけを取り換えたりすることも可能である。

【００３４】

次に、この実施形態では、掴み柄１０に装着された第１取付具６５の第１保持部６８による吸水体６１の保持位置が、掴み柄１０の軸線に対する偏り箇所になっている。同様に、掴み柄１０に装着された第２取付具７５の第２保持部７８による繊維集合体７１の保持位置も、掴み柄１０の軸線に対する偏り箇所になっている。これらの構成は、図４に例示したように、第１保持部６８や第２保持部７８を、掴み柄１０の軸線に対して角度θ１，θ２だけ傾けておくことによって得られる。こうしておくと、吸水体６１を用いる水滴の拭き取りや繊維集合体７１を用いる洗浄を使い勝手よく行うことができる。

【００３５】

上記した実施形態では、吸水用ブラシヘッド６０が掴み柄１０の一方側の端部１１に設けられ、洗浄用ブラシヘッド７０が掴み柄１０の他方側の端部１２に設けられているけれども、この点は、洗浄用ブラシヘッド７０を掴み柄１０の一方側の端部１１に設け、吸水用ブラシヘッド６０を掴み柄１０の他方側の端部１２に設けておいてもよい。

【００３６】

また、上記した実施形態では、掴み柄１０が、筒状の第１軸部２０に第２軸部４０を差し込むことによって構成されているけれども、この点は、第２軸部を筒状にして、この第２軸部に第１軸部を差し込むことによって掴み柄１０を構成することも可能である。

【００３７】

さらに、上記した実施形態では、固定機構８０が、第１軸部２０に設けられた凹部８１，８２，８３と、第２軸部４０側の弾性片８６に設けられた凸部８５とを有しているけれども、この点は、固定機構が、第２軸部に設けられた凹部と第１軸部の弾性片に設けられた凸部とによって構成することも可能である。

【符号の説明】

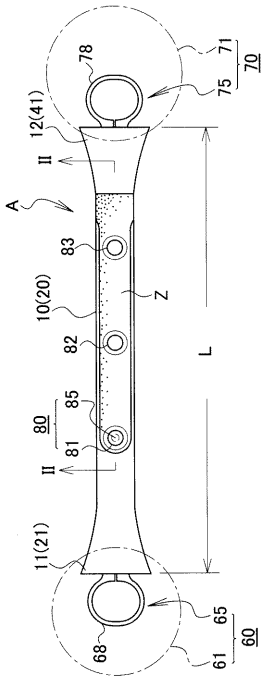
【００３８】

Ａ　洗浄拭き取り具。

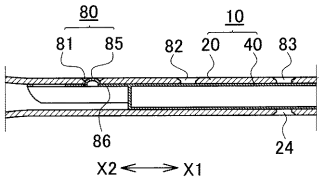
１０　掴み柄

１１　掴み柄の一方側の端部
１２　掴み柄の他方側の端部
１５，２４，４４　吊り下げ用の孔部
２０　第１軸部
２１　第１軸部の先端部
４０　第２軸部
４１　第２軸部の先端部
６０　吸水用ブラシヘッド
６１　吸水体
６５　第１取付具
６８　第１保持部
７０　洗浄用ブラシヘッド
７１　繊維集合体
７５　第２取付具
７８　第２保持部
８０　固定機構
８１，８２，８３　凹部
８５　凸部
８６　弾性片
９５　枝分かれ細片
９２　補強用芯材
９３　凹凸

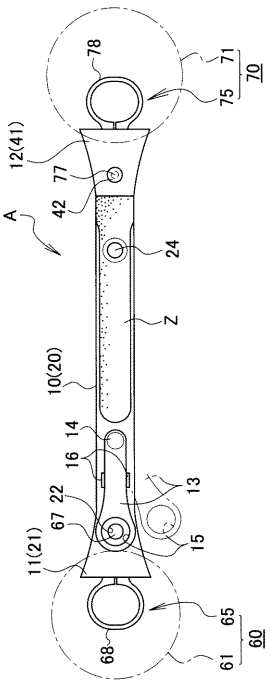
【図１】



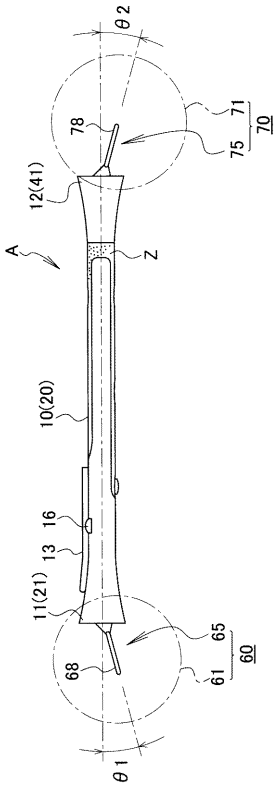
【図２】



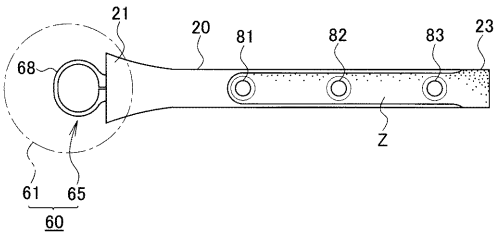
【図３】



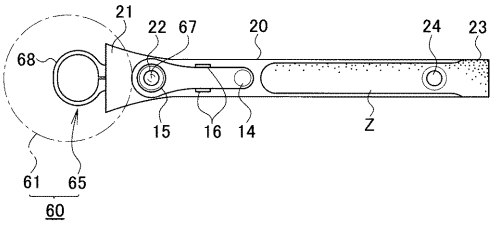
【図４】



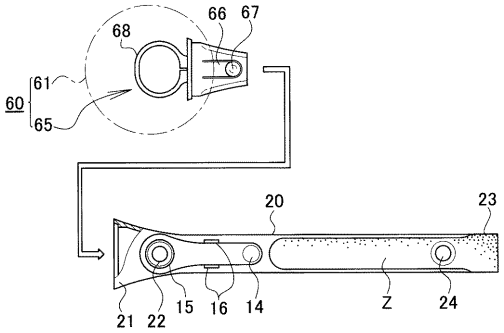
【図５】



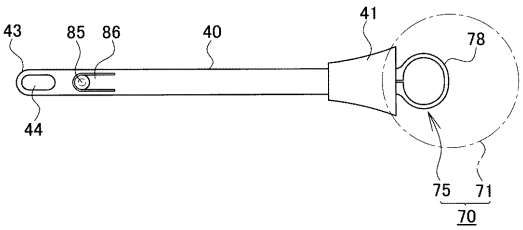
【図６】



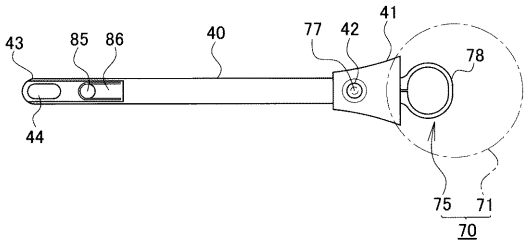
【図７】



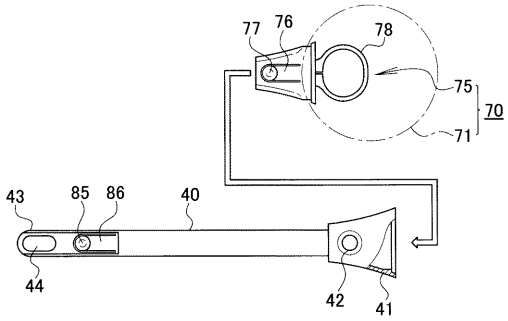
【図８】



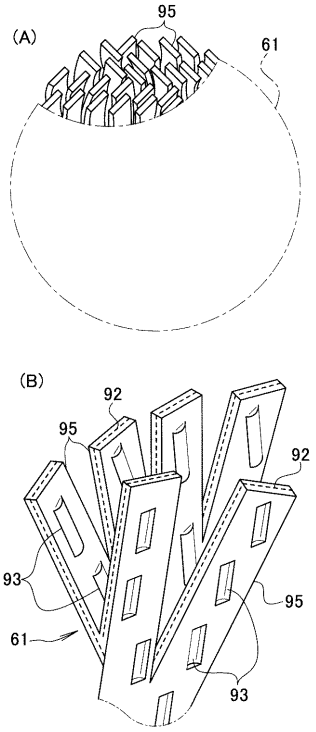
【図９】



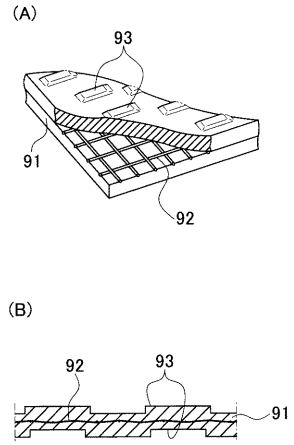
【図１０】



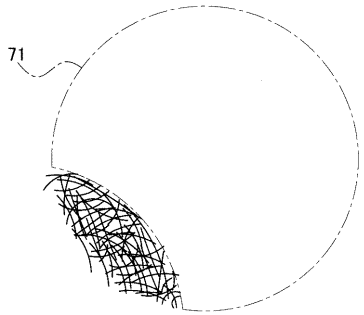
【図１１】



【図１２】



【図１３】



【手続補正書】
【提出日】令和1年11月8日(2019.11.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】請求項６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項６】
上記固定機構が、上記第１軸部又は上記第２軸部のうちの一方側部材に設けられた凹部と、他方側部材に形成された弾性片に設けられて上記一方側部材に対する上記他方側部材の抜き差し動作を通じて上記凹部に嵌脱される凸部とを有してなり、上記凹部が上記一方側部材の軸方向複数箇所に間隔を隔てて設けられているか、又は、上記凸部が上記他方側部材の軸方向複数箇所に間隔を隔てて設けられている請求項５に記載した洗浄拭き取り具。
【手続補正２】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】請求項７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項７】
棒状の上記掴み柄と上記第１軸部と上記第２軸部とのそれぞれに、吊り下げ用の孔部が具備されている請求項５または請求項６に記載した洗浄拭き取り具。